

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号		
法人名	社会福祉法人 不動産	
事業所名	宇治やすらぎの家 2階	
所在地	京都府宇治市宇治戸ノ内22-6	
自己評価作成日		評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名		
所在地		
訪問調査日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの宇治の観光名所や商店街に程近くとても環境に恵まれた地域にあります。その立地条件を活かし、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけたり、近所のスーパーまでお買い物に出かけたりし、少しでも季節の移り変わりや賑わいを感じていただけるような取り組みをさせていただいています。又ご利用者・ご家族のご希望でありました一泊旅行も今年度は実施することができました。今後ご希望があるようですので、続けていきたいと思っております。普段からご利用者に寄り添った支援を心掛け、行事の際にはご家族の方にもお声を掛けさせていただき、御利用者・ご家族と共に過ごす時間をすこしでも持っていたけように心掛けております。音楽療法といたしまして二ヶ月に一度の割でボランティアの方に来ていただけるようにしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1階ユニットと同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

24	秋は又波により、安心して暮らしている (参考項目:28)	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 不動産		
事業所名	宇治やすらぎの家 1階		
所在地	京都府宇治市宇治戸ノ内22-6		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム宇治やすらぎの家は、数多くの宇治の観光名所や商店街に程近くとも環境に恵まれた地域にあります。その立地条件を活かし、お天気の良い日はなるべく散歩に出かけたり、近所のスーパーまでお買い物に出かけたりし、少しでも季節の移り変わりや賑わいを感じていただけるような取り組みをさせていただいています。又ご利用者・ご家族のご希望でありました一泊旅行も今年度は実施することができました。今後もご希望があるようですので、続けていきたいと思っております。普段からご利用者に寄り添った支援を心掛け、行事の際にはご家族の方にもお声を掛けさせていただき、御利用者・ご家族と共に過ごす時間をすこしでも持っていたできるように心掛けております。音楽療法といたしまして二ヶ月に一度の割でボランティアの方に来ていただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR宇治駅近くの住宅街で開設満3年が経過した2ユニットのグループホームである。小規模多機能型居宅介護事業所との併設である。町内会との関係づくりに取り組み、お互いの行事に参加しようと会長との話し合いが進み、地藏盆や夏祭りに利用者と地域住民との交流ができています。職員は言葉に出さずとも互いの動きをみながら動けるようなチームづくりができています。誕生日に利用者と外食、正月は家で一緒に祝う等、家族は協力的である。ホームでも大運動会、バーベキュー、餅つき等の他、外出行事も多い。家族の願いから始まった1泊温泉旅行は体力の点で白浜温泉と湯の花温泉に分かれて出かけ、久しぶりに畳の上で寝ること、大浴場に浸かること等、利用者にとっても家族にとっても喜びと思いを残している。職員にとっても多くの学びと経験となっている。グループホームらしいグループホームの姿が実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが		

24	秋は又波により、安心して暮らしている (参考項目:28)	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念『共感と信頼』に沿った、事業所独自の『笑顔とやすらぎのある暮らし』という理念のもと、ご利用者一人ひとりに寄り添うように、生活だけでなく、気持ちのサポートも心がけている。	以下の項目すべて1階ユニットに同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度ようやく、地域の町内会の役員様とお話を持たせていただき、地域の地蔵盆によんでいただきました。又やすらぎの家の夏祭りやお餅つきにご招待させていただきました。今後もお声掛けをさせていただけるような関係になりました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	検討課題のままである。 地域の方々に向けての発信方法を模索中	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催 出席者へ事業報告し、意見や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宇治市からも運営推進会議に参加していただいている。 必要に応じて宇治市の介護保課の担当者と連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため施錠しているが、連結している小規模の玄関は開放しており、出入りが自由である。 各フロアは出入り可能にしエレベーター、階段も開放している。スピーチロックについても職員は認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時に施設の内容・方針等を説明し、理解・同意を得ている。 契約後も常に相談できるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も数名おられるので、後見人様のお話を聞く機会を持つように心がけ、意見や情報交換を活かしサービスの向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の内容・方針等を説明し、理解・同意を得ている。 また、随時質問についても説明を行っている。 契約後もいつでもお話できるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度介護相談員が来所され、ご利用者の要望の聞き取り行ったり、年に2回は家族会を開催し、家族同士の意見・情報交換や要望を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回人事調書として、各職員の意見を理事長に届けるようになっております。又各職員の意見や提案はその都度お聞きさせていただき、反映できる部分は極力反映させていくように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応が出来るように努めている。またパート職員に関しては、雇用更新時に時給をアップしたりもするようにしています。又パート職員から正規職員への途用の道も開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉経験の無い方でも、福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し資格などの習得を推奨している。又内部・外部研修にも出来る限り参加していただくよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の介護支援専門員連絡会に参加している。新規の入居者さんがサービスを利用されている時は、その事業所に訪問させていただき、ご本人の状態はもちろんのこと、情報交換を通してネットワーク作りを心がけている。 同法人内の他事業所にも出かけ交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談においては、利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人も思いや要望を聞き取り、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を随時受け付け、可能な限りご家族の要望や不安に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・施設見学の際にサービスの説明を行い、必要に応じて他のサービスのや事業所、相談先を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念『共感と信頼』と事業所理念『笑顔とやすらぎのある暮らし』をモットーに共に支えあう暮らしが送れるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には気軽に来訪していただいている。 行事や家族会への参加も少しずつ増え、共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた方々の来訪や、行きつけの美容院へ行ったり、馴染みの場所や自宅に行くなど、今までの習慣・関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが起きることもあるが、職員が間に入り、仲介役となりよい関係が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻回とは言えないが、退去後のご利用者に面会に行ったり行事に招いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、ご利用者の思いや希望を汲み取るように努め、職員間ではケア会議やカンファレンス等で検討している。パーソンセンタードケアについて常に考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族からの聞き取り、入居前のサービス担当者からの聞き取りなどにより情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや、日誌・会議などから情報を共有し心身状態の把握に努め、その状況に応じた活動を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等にご本人やご家族の参加はなかなかしていただけてない状況ですが、要望や意見を来設時などにうかがい、主治医の意見を反映させた介護計画書を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	、ケアプランをもとにケアを行っている。又変化があればその都度話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーや地域の喫茶店に行ったり、保育園との交流を続けている。又町内会の行事に呼んでいただいたり、やすらぎの家の行事にご招待させていただいたりして徐々にはあるが地域との繋がりも増やしていけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度かかりつけ医が往診に来てくれている。本人・ご家族の希望により他の専門医を受診する方もおられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能型居宅介護の看護師及び、月2回の往診時の同行看護師とご利用者の情報を共有し、処置や受診等のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に情報提供を行っている。入院中は出来る限り面会に伺うようにし、状態の把握に努めている。又退院時は必要に応じてカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化や終末期のあり方についての方針は、まだ明確に示せていない。今後職員ご家族を含めてケースバイケースで対応するようにしていきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・夜間緊急時対応のマニュアルに沿った対応が出来るよう取り組んではいるが、応急手当等の実践力の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の義務付けられた避難訓練のほか、簡単ではあるがユニット内でたまに行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉遣いや対応を心掛けている。又、研修を通じて理解を深めるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望が表出できるよう努めている。又表出できない方に対しては、選択肢を用意するなど、利用者に応じた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いすることはなくご利用者のペースに出来る限りあわすように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択・整容はなるべくご利用者にしていただき、出来ないところを職員がサポートするように心掛けている。又外出時等には化粧をしていただいたりして、生活に張りを持っていただけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材の買い物、食事準備、後片付けなどご利用者と職員と一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでおり、ご利用者から自発的なお手伝いや、積極的なご意見を伺えることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日記録して過不足にならないように心掛けている。又、個人の嚥下、咀嚼能力に応じた食事形態や飲み物を提供するように心掛けている。献立表などを基に栄養のバランスを考えた食事を提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行っている。週に1回程度訪問歯科の往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、状況に応じて声掛けやトイレ誘導を行い、出きる限りトイレでの排泄を支援している。又、日々の引継ぎ時職員間で意見交換し、紙パンツを減らすよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い野菜など献立に入れたり、又水分も多く摂取していただき、体操・レクリエーション等で運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴していただいております。本人用のシャンプーやボディソープも用意し入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。個々にあった支援は今後の課題として残っている。その都度、希望者も聞き入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整え、安眠につながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書をファイルに保管しお薬手帳も各利用者様分用意し、全職員が把握できるように努めている。 内服薬一覧表も作成し、ご利用者がどのような薬を服薬しているかをわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かして家事に取り組んでいただいたり、買い物に行っていたりしている。又外出で喫茶店や外食に行ったりコンサートに行っていたりして気分転換をしていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出希望にはこたえきれていないのが現状ではあるが、天気の良い日は戸外に出かけるように努力しており、職員・家族とともにお墓参りやお祭りにも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望によりある程度の金銭を所持しておられる方もいらっしゃいますが、大半のご利用者の方はご家族の同意の下事業所で一括管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望により、相手側に了承を得た上で、ご自由に電話をさせていただいております。又年賀状やお手紙のやり取りも支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの写真や集合写真、共同作品を飾るように心がけ、居心地の良い空間作りに努めている。 生き物を飼育し、世話を通して落ち着いて過ごしてもらえる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにソファを置き、玄関前にベンチを置いたり気分転換ができるように配慮している。 (ソファに関しては皆が見えるように配置している)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた馴染みの物や、ご本人の大切なもの、趣味を持ってきていただけるように働きかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の心身の状況に合わせて、居室・フロアの環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念『共感と信頼』に沿った、事業所独自の『笑顔とやすらぎのある暮らし』という理念のもと、ご利用者一人ひとりに寄り添うように、生活だけでなく、気持ちのサポートも心がけている。	法人の理念「共感と信頼」をふまえ、グループホームの理念を職員が話し合い、「笑顔とやすらぎのある暮らし」と定め、重要事項説明書に明記、玄関に掲示、運営推進会議で発表している。職員は会議等で常に確認している。理念の実践として、利用者によりそい、ゆっくり話を聞かなかで少しずつ笑顔が増えてきていることを励みとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度ようやく、地元の町内会の役員様とお話を持たせていただき、地域の地藏盆によんでいただきました。又やすらぎの家の夏祭りやお餅つきにご招待させていただきました。今後もお声掛けをさせていただけるような関係になりました。	町内会長と話し合い、互いの行事に参加しあうことになり、地藏盆の数珠回しに利用者が出かけており、グループホームの夏祭りや餅つきには町内区の子どもたちが参加している。榎島ワンサカフェスタやロビーコンサートに参加している。	地域の高齢者世帯で困っていることがあれば介護相談や認知症相談にのったり、校区の小中学校の体験実習を受け入れる等をして小中学生との交流を進めたり等、地域との連携を図ることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	検討課題のままである。 地域の方々に向けての発信方法を模索中	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催 出席者へ事業報告し、意見や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。	家族、民生委員、老人福祉委員、市高齢介護課、地域包括支援センターがメンバーとなり、隔月に開催し、記録を残している。地域の情報を得たり、「市にグループホーム連絡会を結成してほしい」「職員処遇を改善するために市独自の加算を考えてほしい」等、サービスの向上のための意見を出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宇治市からも運営推進会議に参加していたっている。 必要に応じて宇治市の介護保課の担当者との連絡を取っている。	市とは報告や連絡を怠らず、連携を図っている。相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため施錠しているが、連結している小規模の玄関は開放しており、出入りが自由である。 各フロアは出入り可能にしエレベーター、階段も開放している。スピーチロックについても職員は認識している。	「身体拘束をしないケア」について、契約書に明記し、マニュアルを作成、職員研修を実施している。スピーチロックについて職員は認識している。玄関ドアは施錠しているものの、1階や2階の非常口、エレベーター、階段等、すべて施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時に施設の内容・方針等を説明し、理解・同意を得ている。 契約後も常に相談できるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も数名おられるので、後見人様のお話を聞く機会を持つように心がけ、意見や情報交換を活かしサービスの向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に施設の内容・方針等を説明し、理解・同意を得ている。 また、随時質問についても説明を行っている。 契約後もいつでもお話できるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度介護相談員が来所され、ご利用者の要望の聞き取り行ったり、年に2回は家族会を開催し、家族同士の意見・情報交換や要望を聞く機会を設けている。	家族は毎月面会にきており、その際に情報交換している。隔月の広報誌を発行し、家族に配布している。クリスマス会と夏祭りは家族も参加しており、その機会に家族会を開催し、家族同士の交流ができています。1泊の温泉旅行は家族の願いの実現であり、2年間の積み立てに家族が参加し、旅行も共に楽しんでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一回人事調書として、各職員の意見を理事長に届けるようになっております。又各職員の意見や提案はその都度お聞きさせていただき、反映できる部分は極力反映させていくように努めている。	業務会議とケース会議を毎月、年間プログラムによる内部研修は隔月に実施し、職員が参加している。職員は利用者の居室整理等の係、食事係、行事係、備品係等の役割分担をしている。「毎日同じ人がレクをしないほうがいいのでは」「夜勤と早出の仕事を少し組み替えては」等、職員は積極的に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて、必要な対応が出来るように努めている。またパート職員に関しては、雇用更新時に時給をアップしたりもするようにしています。又パート職員から正規職員への途用の道も開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福祉経験の無い方でも、福祉に情熱をお持ちの方であれば採用し資格などの習得を推奨している。又内部・外部研修にも出来る限り参加していただくよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の介護支援専門員連絡会に参加している。新規の入居者さんがサービスを利用されている時は、その事業所に訪問させていただき、ご本人の状態はもちろんのこと、情報交換を通してネットワーク作りを心がけている。 同法人内の他事業所にも出かけ交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談においては、利用中のサービス先や家庭を可能な限り訪問し、本人も思いや要望を聞き取り、安心を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を随時受け付け、可能な限りご家族の要望や不安に耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・施設見学の際にサービスの説明を行い、必要に応じて他のサービスのや事業所、相談先を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念『共感と信頼』と事業所理念『笑顔とやすらぎのある暮らし』をモットーに共に支えあう暮らしが送れるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には気軽に来訪していただけている。 行事や家族会への参加も少しずつ増え、共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた方々の来訪や、行きつけの美容院へ行ったり、馴染みの場所や自宅に行くなど、今までの習慣・関係が途切れないように努めている。	昔暮していてなつかしいという利用者とJRで奈良へ、京都の高島屋へ、いつも見ていたという祇園祭の辻回しを見に、利用者の思いの実現として職員が同行している。北海道にいる息子の嫁との電話を支援している。関係がこじれていて長く会っていない姉との関係が、電話の支援によって修復した人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが起きることもあるが、職員が間に入り、仲介役となりよい関係が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻回とは言えないが、退去後のご利用者に面会に行ったり行事に招いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、ご利用者の思いや希望を汲み取るように努め、職員間ではケア会議やカンファレンス等で検討している。パーソンセンタードケアについて考えている。	契約時に利用者の医療情報、介護保険情報を収集している。利用者の思いは「夕方になると家のことが気になる」「じっとしていることがきらい。何かしたい」等、記録している。京都出身、夫とパン屋をしていた、子どもは2人等、利用者の生活歴の情報は不十分である。	利用者を深く理解し、グループホームでの暮らしを支えていくために、利用者の出身地、子ども時代や結婚後の暮らし、利用者の趣味や好きなこと等の情報を把握することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族からの聞き取り、入居前のサービス担当者からの聞き取りなどにより情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや、日誌・会議などから情報を共有し心身状態の把握に努め、その状況に応じた活動を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等にご本人やご家族の参加はなかなかしていただけてない状況ですが、要望や意見を来設時などにかが、主治医の意見を反映させた介護計画書を作成するように努めている。	介護計画はケアマネジャーが作成、職員に周知を図っている。機能維持を目的とした身体介護の項目が多く、暮らしのなかの楽しみの項目の内容は平板である。介護記録は介護計画の項目で書いているものの、介護を実施したときの利用者の表情や発言が不十分である。モニタリングは目標ごとに目標達成度、満足度、今後の方針を記録している。	介護計画は利用者の思いを掘り下げて連動した楽しみの項目を入れ、一人ひとり焦点化すること、介護記録は介護を実施したときの利用者の発言や表情を記し、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは介護計画の項目ごとに「介護の実施」「利用者状況」「満足度」「今後の方針」について記録すること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	、ケアプランをもとにケアを行っている。又変化があればその都度話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーや地域の喫茶店に行ったり、保育園との交流を続けている。又町内会の行事に呼んでいただいたり、やすらぎの家の行事にご招待させていただいたりして徐々にではあるが地域との繋がりも増やしていかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二度かかりつけ医が往診に来てくれている。本人・ご家族の希望により他の専門医を受診する方もおられる。	地域の協力医が毎月2回往診してくれている。従来のかかりつけ医に家族が同行して受診している利用者もいる。内科以外は宇治武田病院に受診、歯科は訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能型居宅介護の看護師及び、月2回の往診時の同行看護師とご利用者の情報を共有し、処置や受診等のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に情報提供を行っている。入院中は出来る限り面会に伺うようにし、状態の把握に努めている。又退院時は必要に応じてカンファレンスに出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化や終末期のあり方についての方針は、まだ明確に示していない。今後職員ご家族を含めてケースバイケースで対応するようにしていきたい。	利用者の重度化や終末期に関して方針はあるものの文書化された指針はなく、利用者や家族に質問された場合は個々に口頭で説明している。利用者や家族は「できればグループホームで最期までお願いしたい」という意向が多い。かかりつけ医が終末期と診断した利用者と家族がグループホームでの看取りを希望し、医師と訪問看護師の協力のもと職員一同が看取りをした実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・夜間緊急時対応のマニュアルに沿った対応が出来るよう取り組んではいるが、応急手当等の実践力の向上に努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の義務付けられた避難訓練のほか、簡単ではあるがユニット内でたまに行っている。	消防署の協力のもと年2回の火災に対する避難訓練を実施している。地震、夜間帯、予告なしの訓練は実施していない。備蓄は不十分であり、ハザードマップは備えていない。	避難訓練は地震、夜間帯、予告なしも含めて、職員の身につくように年数回は実施すること、備蓄は3日分の食料だけでなく、薬品、衣類、毛布等も含めて準備すること、ハザードマップを掲示して、職員が危険箇所を認識しておくこと、以上の3点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉遣いや対応を心掛けている。又、研修を通じて理解を深めるよう努めている。	利用者の尊厳と人権を守り、年長者として尊敬し、一人ひとりの人柄を深く理解した言葉遣いに対応をするように職員は心掛けている。意思表示の困難な人には、選択肢をいくつか用意して自己決定を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望が表出できるよう努めている。又表出できない方に対しては、選択肢を用意するなど、利用者に応じた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、無理強いすることなくご利用者のペースに出来る限りあわすように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択・整容はなるべくご利用者にしていただき、出来ないところを職員がサポートするように心掛けている。又外出時等には化粧をしていただいたりして、生活に張りを持っていただけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材の買い物、食事準備、後片付けなどご利用者と職員と一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでおり、ご利用者から自発的なお手伝いや、積極的なご意見を伺えることもある。	毎週2回の昼食は仕出し屋からの配達を利用するほかは毎日利用者の希望を聞いて献立を立て、食材を買いに行く。3食とも主菜のほかに必ず副菜を2品つけており、和食が多い。食卓に季節の花を飾り職員も一緒に会話しながらゆっくり食事を楽しんでいる。認知症による食事に課題のある人はケース会議で検討し、対応している。カロリー値のかわりに体重管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎日記録して過不足にならないように心掛けている。又、個人の嚥下、咀嚼能力に応じた食事形態や飲み物を提供するように心掛けている。献立表などを基に栄養のバランスを考えた食事を提供出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった口腔ケアを行っている。週に1回程度訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、状況に応じて声掛けやトイレ誘導を行い、出きる限りトイレでの排泄を支援している。又、日々の引継ぎ時職員間で意見交換し、紙パンツを減らすよう努めている。	ほとんどの利用者が排泄の自立ができており、トイレの場所がわかりにくい人や歩行があぶなっかしい人には職員がついていく。支援が必要な人には排泄チェック表をつけ、パターンを把握し、トイレ誘導している。排便は運動、水分、食物で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い野菜など献立に入れたり、又水分も多く摂取していただき、体操・レクリエーション等で運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴していただいております。本人用のシャンプーやボディソープも用意し入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。個々にあった支援は今後の課題として残っている。その都度、希望者も聞き入浴していただいている。	浴室は明るく、ゆったりしている。午後の時間帯で週2回、支援している。利用者の男性職員はいやだとか、男性職員を希望する等、介助の職員の希望に対応している。	入浴は利用者の暮らしのなかで食事に次ぐ楽しみのひとつである。毎週3回の入浴を支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中を活動的に過ごしていただき、生活のリズムを整え、安眠につながるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書をファイルに保管しお薬手帳も各利用者様分用意し、全職員が把握できるように努めている。 内服薬一覧表も作成し、ご利用者がどのような薬を服薬しているかをわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かして家事に取り組んでいただいたり、買い物に行っていたりしている。又外出で喫茶店や外食に行ったりコンサートに行っていたりして気分転換をしていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出希望にはこたえきれしていないのが現状ではあるが、天気の良い日は戸外に出かけるように努力しており、職員・家族とともにお墓参りやお祭りにも行っている。	車いすの人も含めて、ふだんはホームの近くを散歩したり、近くのスーパーやJRの宇治駅に出かけたりしている。県神社への雪のなかでの初詣、桃山城や鴻巣公園での花見、府立植物園での紅葉狩り等、季節ごとの外出をしている。1泊温泉旅行は利用者の大喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望によりある程度の金銭を所持しておられる方もいらっしゃいますが、大半のご利用者の方はご家族の同意の下事業所で一括管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望により、相手側に了承を得た上で、ご自由に電話をしていただいております。又年賀状やお手紙のやり取りも支援させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの写真や集合写真、共同作品を飾るように心がけ、居心地の良い空間作りに努めている。 生き物を飼育し、世話を通して落ち着いて過ごしてもらえる工夫をしている。	居間兼食堂は広くゆったりして、大きな窓から自然光が入る。窓際のケースには本、CD、レクの道具等、食卓と椅子、テレビの前に大きなソファ、壁には干支の貼り絵、職員の顔写真等、落ち着いた雰囲気を出している。ユニットの玄関ホールには鬼の面や桜と平等院の大きな切り絵を貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにソファを置き、玄関前にベンチを置いたり気分転換ができるように配慮している。 (ソファに関しては皆が見えるように配置している)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた馴染みの物や、ご本人の大切なもの、趣味を持ってきていただけるように働きかけている。	居室は洋間でクローゼットがついている。利用者は絨毯、ベッド、布団、筆筒、机、椅子、テレビ等使い慣れた家具を持ち込んでいる。古典的な筆筒、亡夫の写真の前に供えているお水と花、自慢の孫の写真、観葉植物の鉢と花瓶にも花等々、利用者の個性が出ている部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の心身の状況に合わせて、居室・フロア的环境作りに努めている。		